

赤毛と靴とストッキング 『長くつ下のピッピ』と〈世界の名作〉

1. 日本のアニメと北欧文学

- (1) 関心の在り処
- (2) 幻のアニメ『長くつ下のピッピ』
- (3) 〈世界の名作〉

2. リンドグレーン『長くつ下のピッピ』

3. 赤毛と靴とストッキング

- (1) 赤毛
- (2) 靴
- (3) ストッキング

5. 参考文献

1. (1) 関心の在り処

- ・北欧文学者として: 研究の「原点」・他の北欧文学との関連
- ・プロジェクト人魚メンバーとして: 翻訳・受容・世界文学
- ・日本ハイジ児童文学研究会との接点: 少女小説・孤児文学
- ・高畑勲氏のアニメとの接点: 幻の『長くつ下のピッピ』

2015年9月1日

於: 東京理科大学

「高畑勲の《世界》と《日本》」

第一部

発表者: 中丸 禎子

(東京理科大学)

1. 日本のアニメと北欧文学 (2) 幻の『ピッピ』

✧ 幻のアニメ『長くつ下のピッピ』

—あらためて振り返って、高畑さんたちが1971年に「ピッピ」という作品に取り組んだ意味というのは何だったんでしょうか。

それはその当時、僕らが属していた娯楽アニメ、商業アニメの世界で、マンガでもなく、ダイジェストでもなく、真面目に、児童文学を原作にして本格的な作品を作ろうとしたということですよね。しかも、20世紀の生きのいい児童文学を題材にして。子どもの心を解放し、生き生きさせるような本格的なアニメシリーズを作るためには、どうしなきゃいけないのかということを一生懸命考えた。そして、少なくとも表現のとば口までは行った。それはものすごく大きな経験だったと思います。

(『幻の「長くつ下のピッピ」』、145頁)

⇒映像化という翻訳作業:表象(見た目、身体的特徴)

1. 日本のアニメと北欧文学 (2) 幻の『ピッピ』

❄️ 幻のアニメ『長くつ下のピッピ』

- Aプロダクション(現シンエイ動画)の企画
 - ⊙ 東京ムービーのメインスタッフ会社
 - ⊙ アニメーター・社長: 楠部大吉郎
 - ⊙ 『ムーミン』(1969)作画監督: 大塚康夫
- 高畑勲氏、宮崎駿氏・小田部羊一氏とともに東映動画(現東映アニメーション)からAプロダクションに移籍
 - ⊙ 高畑勲氏の覚え書き、字コンテ
 - ⊙ 宮崎駿氏のロケハン(ストックホルム、ヴィスビュー)、イメージボード制作
 - ⊙ 小田部羊一氏のキャラクター・デザイン
- 原作者リンドグレーンの許可が下りず、企画中止

1. 日本のアニメと北欧文学 (2) 幻の『ピッピ』

✧ 幻のアニメ『長くつ下のピッピ』

- 設定の一部は、のちのアニメに引き継がれる
- 『パンダコパンダ』
 - ✧ 主人公ミミ子(声:杉山佳寿子(ハイジ役))
 - ◆ デザイン・性格、一人暮らし、料理の作り方、逆立ち
 - ✧ 子どもなのに強いコパンダ
 - ✧ 家の内部
 - ✧ 泥棒(と思った相手)をからから、移動サーカス
- 『アルプスの少女ハイジ』
 - ✧ ブランコ(オープニング)
- 『魔女の宅急便』
 - ✧ ビスビュー、ガムラスタン(ロケハン)

1. 日本のアニメと北欧文学 (3) <世界の名作>

放映	タイトル	原作者	原作	国	書籍初邦訳
1868	アンデルセン物語 (東映)	ハンス・クリスチャン・アンデルセン (1805-75)	『童話集』シリーズ (1835-72)	D	河瀬清太郎訳『小サキ燧火木売ノ女兒』(1886/M19)
1969, 1972	*ムーミン	トーベ・ヤンソン (1914-2001)	『ムーミン』シリーズ (1945-70)	F	山室静訳『ムーミン谷の冬』(1964/S39)
1970	*アンデルセン物語 (虫プロ)	ハンス・クリスチャン・アンデルセン (1805-75)	『童話集』シリーズ (1835-72)	D	河瀬清太郎訳『小サキ燧火木売ノ女兒』(1886/M19)
1971 (企画)	長くつ下のピッピ	アストリッド・リンドグレン (1907-2002)	『長くつ下のピッピ』シリーズ (1945-48)	S	山口四郎訳『おちゃめなピッピ』(1963/S38)
1972-74	小さなバイキングビッケ	ルーネル・ヨンソン (1916-2006)	『バイキングのビッケ』シリーズ (1963)	S	大塚勇三訳『小さなバイキング』(1967/S42)
1980-81	ニルスのふしぎな旅	セルマ・ラーゲルレーヴ (1858-2006)	『ニルスの不思議な旅』(1906-07)	S	香川鉄蔵『飛行一寸法師』(1919/T8)
1983-84	スプーンおばさん	アルフ・プリョイセン (1914-1970)	『小さなスプーンさん』シリーズ (1960)	N	大塚勇三訳『小さなスプーンおばさん』(1966/S41)
1984	*牧場の少女カトリ	アウニ・ヌオリワラ (1883-1972)	『羊飼い、女中、主婦』(1936)	F	森本ヤス子訳『牧場の少女』(1952/S27)

*=「世界名作劇場」(前身を含む)

D=デンマーク、F=フィンランド、N=ノルウェー、S=スウェーデン

1. 日本のアニメと北欧文学 (3)〈世界の名作〉

❄️ 〈世界の名作〉としての北欧文学の翻訳

- 山室静訳「ムーミン谷の冬」(1964/S39)
 - ❄️ 『少年少女新世界文学全集』27 (講談社) 所収
 - ❄️ 同時収録: リンドグレーン「長くつ下のピッピちゃん」
ハムレ「青二号—とびだせ」
- 山口四郎訳『おちゃめなピッピ』(1963/S38)
 - ❄️ 『少年少女世界名作全集』50 (講談社)
- 大塚勇三訳『小さなバイキング』(1967/S42)
 - ❄️ 「少年少女 新しい世界の文学」1 (学研)
- 大塚勇三訳『小さなスプーンおばさん』(1966/S41)
 - ❄️ 「新しい世界の童話シリーズ」10 (学研)
- 雪室俊一訳『ニルスのふしぎな旅』(1979/S54)
 - ❄️ 「学研・絵ものがたり」33 (学研)

1. 日本のアニメと北欧文学 (3)〈世界の名作〉

※〈「学研・絵ものがたり」シリーズ

- 日本・世界の民話・昔話(彦一、一休、こわい話、わらい話など)
- 偉人伝(野口英世、エジソン、ベーブ・ルース、王貞治、ナイチンゲール、ヘレン・ケラー、ファール、リンカーン、豊臣秀吉、源義経)
- 世界の名作(シンドバッド、そんごくら、青い鳥、アリスなど)
- アニメと同年・同タイトル・アニメ脚本家による文章
 - ☀₁₁『母をたずねて三千里』(文:辻真先/1979) ※アニメ・特撮脚本家
 - ☀₁₅『子じかものがたり』(文:雪室俊一/1976) ※アニメ放映1983
 - ☀₃₃『ニルスのふしぎなたび』(文:雪室俊一/1979) ※アニメ脚本家
 - ☀₄₄『スプーンおばさん』(文:塩野米松/1983)
 - ☀₄₅『愛少女ポリアンナ物語』(文:おおくぼ由美/1986)
 - ☀₄₆『愛の若草物語』(文:おおくぼ由美/1987) ※OP「いつかきっと」作詞
 - ☀₄₇『アニメ三銃士:みんなは一人のために!一人はみんなのために!』
(文:田波靖男/1987) ※「アニメ三銃士」脚本家
 - ☀₄₈『小公子セディ』(文:田中史子/1988)

1. 日本のアニメと北欧文学 (3)〈世界の名作〉

❄️ 北欧文学研究の観点

- 1960年代末～80年代半ばにかけての北欧文学の受容
 - ❄️ (同時代の文学)
 - ❄️ 「世界の名作」としての受容
 - ❄️ カルピスマんが劇場⇒カルピスこども劇場⇒カルピスファミリー劇場⇒世界名作劇場⇒ハウス食品世界名作劇場⇒世界名作劇場
 - 家族で見る家族の物語
 - ❄️ 『ムーミン』
 - 💧 1969年10月5日(日)放映開始(フジテレビ系列)
 - * 『サザエさん』と同日・同局 [比較] 劇画アニメ
 - 💧 カルピスマんが劇場 = ファミリー向け・欧米児童文学
- ※原作は19世紀の古典児童文学が多い

1. 日本のアニメと北欧文学 (3)〈世界の名作〉

❄️「家族」はどのように描かれたか？

➤ 家族で暮らす子ども ⇒ 家族の絆(の深まり)を描く

❄️ ムーミン(1969,1972)

❄️ 小さなバイキングビッケ(1972) ※別枠作品

❄️ あらいぐまラスカル(1977)

❄️ 家族ロビンソン漂流記 ふしぎな島のフローネ(1981)

❄️ 南の虹のルーシー(1982)

❄️ アルプス物語 わたしのアンネット(1983)

❄️ スプーンおばさん(1983) ※別枠作品・主人公は大人

❄️ 愛の若草物語(1987) ※姉妹のみで暮らす場面あり

❄️ 七つの海のティコ(1994)

❄️ 名犬ラッシー(1996)

1. 日本のアニメと北欧文学 (3)〈世界の名作〉

※「孤児」「孤児状態の子ども」はどのような結末を迎えるか？

➤ 保護者との絆を深める

☀ アルプスの少女ハイジ(1974)

☀ 赤毛のアン(1979) ⇒ 原作では自立 + 結婚

☀ 小公子セディ(1988)

☀ 愛少女ポリアンナ物語(1986)

☀ レ・ミゼラブル 少女コゼット(2007)

➤ 実の親と再会or帰宅

☀ ニルスのふしぎな旅(1980)

☀ 牧場の少女カトリ(1984)

☀ 大草原の小さな天使 ブッシュベイビー(1992)

☀ 母をたずねて三千里(1979)

☀ 家なき子レミ(1996)

☀ 大草原の小さな天使 ブッシュベイビー(1992)

☀ ロミオの青い空(1995)

1. 日本のアニメと北欧文学 (3)〈世界の名作〉

※「孤児」「孤児状態の子ども」はどのような結末を迎えるか？

➤ 保護者or結婚相手(候補)を獲得

☀ ペリーヌ物語 (1978)

☀ 小公女セーラ (1985)

☀ 私のあしながおじさん (1990)

☀ トラップ一家物語 (1991)

➤ その他

☀ トム・ソーヤーの冒険 (1980) ⇒ 叔母との関係変化なし

☀ フランダースの犬 (1975) ⇒ 死去

☀ ポルフィの長い旅 (2008) ⇒ 妹と再会

☀ 若草物語 ナンとジョー先生 (1993) ⇒ 自立

⇒ 家族の絆や、孤児が家族を作る／探す過程を通じて、
「理想的な家族」像を示す

[背景] 欧米の家族／生活へのあこがれ

1. 日本のアニメと北欧文学 (3) <世界の名作>

※『長くつ下のピッピ』

➤ <世界の名作>を踏襲しつつ、そこから外れる

⊙ 孤児状態・保護者なし・財力あり⇒一軒家に一人暮らし

〔比較〕『小公女』『あしながおじさん』⇒寄宿学校

『母をたずねて三千里』『ペリーヌ物語』⇒一人旅

⊙ 父と再会 ⇒一度は父と暮らす、最後に別れる

〔比較〕『若草物語』『ジェイン・エア』『あしながおじさん』

⇒自立した女性が「父のような(年齢)の男性」と結婚

➤ 「父性による保護」の否定 / 「家族」の否定

※問題提起

➤ <世界の名作>としての『長くつ下のピッピ』の可能性

➤ 『ピッピ』の新しさと赤毛・靴・ストッキングの関係

2. 『長くつ下のピッピ』

❄️ アストリッド・リンドグレン (Astrid Lindgren, 1907-2002)

➤ スウェーデン南部の村ヴィンメルビュー生まれ

☀️ 高校卒業後、地元新聞社に勤務

➤ 未婚での妊娠を機にストックホルムへ

☀️ 1926年(19歳)：長男ラーシュを出産(デンマーク・コペンハーゲン／未婚の母の分娩受入れ)

💧 ラーシュをデンマークの里親(のち実家)に預け、ストックホルムで仕事

💧 速記・タイプライターの技術を習得

☀️ 1931年(24歳)：ステューレ・リンドグレンと結婚

💧 ラーシュとともに、ヴルカヌス通り12番地へ

※『屋根の上のカールソン』リッレブルールの家

☀️ 1934年(27歳)：長女カーリンを出産

❄️ 『長くつ下のピッピ』(Pippi Långstrump, 1945-47)

➤ 娘カーリンに即興で聞かせた話

☀️ 名前の由来は「あしながおじさん」Pappa Långben

2. 『長くつ下のピッピ』

※ 『長くつ下のピッピ』 (Pippi Långstrump, 1945-47)

- カーリンが10歳の時、タイプした『ピッピ』をプレゼント (2007年Ur-Pippiとして刊行)
- Laben och Sjögren社から出版 (1945年)
 - ⊙ 大手出版社Albert Bonniers Förlagは刊行せず
 - ⊙ その後、Laben och Sjögren社でパートタイム編集
 - トールキン『ホビットの冒険』スウェーデン語版の挿絵をトーベ・ヤンソンに依頼
- 保守的なスウェーデン文壇からの強い批判 ⇔ 読者人気
 - ⊙ 続編『ピッピ船にのる』 (1946)、『ピッピ南の島へ』 (1948)
 - ⊙ 絵本『長くつ下のピッピってしてる?』 (1947)
 - ⊙ 2度の実写映画化 (1949 (劇場版)、1969 (TVシリーズ))
 - ⊙ 92か国語に翻訳 (日本語訳は20種類)

※ アストリッド・リンドグレーン

- 1941年 (34歳) : ダーラ通り46番地に引っ越し
 - ⊙ 近所を舞台にした作品
 - ⊙ 自分自身や家族の幼少期をモデルにした作品

2. 『長くつ下のピッピ』



❄️ 自宅から半径300mの舞台⇒日常に立脚

- ヴルカヌス通り12番地: 『やねの上のカールソン』
- ヴァーサ公園: 『ペーテルとペトラ』
- テグネル公園(出版社の側): 『ミオよ、わたしのミオ』

❄️ 多くの翻訳: どの挿絵も「ピッピ」と分かる⇒文章による設定

3. 赤毛と靴とストッキング (1) 赤毛

髪の色はニンジンそっくり。その赤い毛をふたつにわけて、きつく編みあげ、その二本のおさががぴーんとつきだしています。鼻は、ちっちゃなジャガイモみたいで、そばかすがいっぱい。その鼻の下には、ほんとに大きな口があって、じょうぶな、まっ白の歯がのぞいています。着ものが、またかわってました。それは、ピッピのお手製でした。だいたいピッピは、青い服をつくるつもりでしたが、青いきれ地がたりませんでした。そこで、小さな赤いきれを、どこにもここにも、いっぱいぬいつけたのでした。すらっとした、長い両足には、長靴下をはいていましたが、かたっぽの靴下は茶色で、もうかたっぽは黒でした。それから、足には、黒い靴をはいていましたが、その靴の大きいことといったら、足のちょうど倍もありました。ピッピのおとうさんは、「こらなら、足が大きくなってもだいじょうぶ。」ということで、この靴を南アメリカで買ってくれたのです。そしてピッピは、ほかの靴をはこうなんて気はありませんでした。(大塚訳)

3. 赤毛と靴とストッキング (1) 赤毛

彼女の髪はニンジンと同じ色で、真っ直ぐに突き出た二本のおさげに結われていました。彼女の鼻はとても小さなじゃがいもと同じ形で、そこらじゅうにそばかすがありました。鼻の下には本当にとっても大きな口と、丈夫な、白い歯がありました。彼女の服は本当に独特でした。ピッピは自分でそれを縫ったのです。最初の予定では青になるはずでしたが、青い布が足りなかったので、ピッピは小さな赤い布きれをここにもあそこにも縫い付けました。彼女の長く、細い脚は一足の長くつ下を履き、片方は黄色(初版:茶色)でもう片方は黒でした。その足に彼女は一足の黒い靴を履いていましたが、彼女の足のちょうど二倍もありました。大きな靴は彼女のパパが、彼女が少しくらい大きくなってもいいように南アメリカで彼女に買ったもので、ピッピは決してほかの靴を持ちたいとは思わなかったのです。(中丸訳)

3. 赤毛と靴とストッキング (1) 赤毛

❄️ モンゴメリ『赤毛のアン』(1908/カナダ)の主人公アン

➤ 主人公アンと容姿が似ている(醜いとされる容姿)

⊙ ニンジン色の赤毛・二本のおさげ

⊙ そばかす

⊙ 痩せている

赤毛: 俗説でユダの髪の色とされ、忌み嫌われた

❄️ ウェブスター『あしながおじさん』(1912/アメリカ)

➤ 名前の由来 (Pappa Långben ⇒ Pippi Långstrump)

❄️ 『赤毛のアン』と『あしながおじさん』と『長くつ下のピッピ』

➤ 主人公が孤児・女性(女児)

➤ 養子縁組が期待できない容姿・性格・性別

➤ ぬきんでた独創性により保護者を得る ⇔ 保護者拒否

⊙ 「子どもの家」(孤児院)に入ることを拒否: 「わたしは子どもで、これは、わたしの家だわ。だから、ここは『子どもの家』よ。わたしはここにいたんだし、これでたくさんよ。」

3. 赤毛と靴とストッキング (1) 赤毛

➤ **ぬきんでた独創性**により保護者を得る ⇔ **保護者拒否**

☀ **第二巻**: 漂流先のクレドット島で「黒人の王様」になっていた父親と再会し、ともに島に行こうとするが、乗船直前に拒否、ごたごた荘にとどまる

☀ **第三巻**: トミー、アンニカとともにクレドット島へ行くが、最後は父親と別れごたごた荘に戻る

➤ **成績優秀** ⇔ **学校に行かない・勉強をしない**

➤ **結婚し、自らの家庭を築く** ⇔ **大人になることを拒否**

「おとなは、つまらない仕事を山ほどして、奇妙な服を着て、手足にたこをつくって、ひょっとこ税をとられるだけよ」

「すてきな生命の丸薬さん わたしはおっきくなりたくない」

「もしピッピがこっちをむいたら、ぼくたち、手をふろうよ。」...でも、ピッピは、夢みるような目つきで、じっとまえをみつめているばかりでした。

それから、ピッピは、ふっと、火をけしました。

(大塚訳『ピッピ南の島へ』)

3. 赤毛と靴とストッキング (1) 赤毛

❄『赤毛のアン』(1908)と『あしながおじさん』(1912)

- 女性作家(職業婦人)
- 女性参政権運動が高まった時期に書かれた
 - ☀ 男性と女性の対等性を主張
- 孤児・女児・赤毛として隔絶されていた社会に、学問の力でコミット⇒主人公の社会への順応を描く

❄『長くつ下のピッピ』(1945)

- リンドグレーン:1907年生まれ
 - ☀ 1914-18:第一次世界大戦⇒女性の社会進出
 - ☀ 否応なく男女の区別がなくなる
- アンチ<世界の名作>
 - ☀ 父親の庇護を拒否 ☀ 結婚を拒否
 - ☀ 社会・国家への順応を拒否

3. 赤毛と靴とストッキング (2) 長くつ下

❄『長くつ下のピッピ』(1945)

➤リンドグレン:1907年生まれ

☀1914-18:第一次世界大戦⇒女性の社会進出

☀動きやすい服:脚が見えるスカート

☀スカートの下から見えるストッキング

💧色:黒⇒肌色、ベージュ(素足に近い)

💧素材:綿・毛⇒ライル糸、絹、レーヨン

☀やせ形の女性(性の要素の捨象、労働者)

⇒時代の先端を行く姿

☀既製品の服⇔手縫いの服

❄ピッピの長くつ下

➤片方は黒:前時代の色

⇒時代の先端を行く進歩的な女性ではない

3. 赤毛と靴とストッキング (2) 長くつ下

❄️ピッピの長くつ下

➤ 片方は茶色 (大塚訳・尾崎、Ur-Pippi) ⇒ 毛皮？

➤ 2015年版 & 朗読CDでは、片方は黒、片方は黄色
⇒ なぜ変わったのか？

[比較] ニイマンの挿絵

黄色: ユダの服の色、「裏切り」など悪いイメージ

「黄色人種」の肌の色 ⇒ 「オリエンタリズム」

❄️ 他人と違うこと = アジア、アフリカ、南米の習慣を持ち出す

➤ 「『ブラジルじゃ、だれもかれも、髪に卵をかけて、あるきまわってるのよ。』」

➤ 「『ベルギー領コンゴでは、ほんとのことをいう人なんか、だれひとりいないのよ』」

➤ 「『アルゼンチンでは、勉強は、ぜったいに禁止されているの』」

➤ サル (ニルソン氏) といつも一緒

3. 赤毛と靴とストッキング (3) 靴

※ピッピの歩き方

- 「片足では敷石の上を、片足では道の脇溝を踏んでいくのです」
- 「後ろ向きに歩いてくるのです。つまり、家まで戻るのに、体の向きを変えないで済まそう、というわけでした。[...]『エジプトじゃ、だれもかれも、こうやって歩いてて、この歩き方がおかしいなんて、誰も考えやしないのよ』」
- 「『インドシナ人のやるように、逆立ち』」

※ピッピの靴：大きすぎる

- 子どもが一人で暮らす＝大人の役割を自分で担う
 - ☀あしながおじさんのような長い脚と財力
- 父が南アメリカで購入⇒父との接点
 - ☀「彼女(ピッピ)が大きくなっても困らないように」(大塚訳では「これなら、足が大きくなってもだいじょうぶ」) ⇔「わたしはおっきくなりたくない」

3. 赤毛と靴とストッキング (3) 靴

❄️ヨーロッパにおける脚／足

➤ 真っ直ぐな、制御できる足 = 正しさの象徴

☀️ 神に呪われた存在: 山羊脚の悪魔、人魚、アンデルセン『赤い靴』の主人公

☀️ 足の「正常」化: 人間社会への順応

💧 ハイジの夢遊病治癒

💧 クララが歩けるようになる

❄️ピッピの脚／足

➤ 新時代の男性と対等な女性の姿

☀️ 細い ☀️ スカートを短く、ストッキングが見える

➤ 「前時代」的な要素

☀️ ファッション ☀️ 「オリエント」の歩き方

⇒ 成長・進歩の価値を否定

参考文献

※『長くつ下のピッピ』

- Astrid Lindgren: Boken om Pippi Långstrump. Omslag och Illustrationer: Ingrid Vang Nyman. Rabén & Sjögren, 2015
 - ⊙ 大塚勇三訳『長くつ下のピッピ』(挿絵:桜井誠)、岩波書店、1964
 - ⊙ 大塚勇三訳『ピッピ船にのる』(挿絵:桜井誠)、岩波書店、1965
 - ⊙ 大塚勇三訳『ピッピ南の島へ』(挿絵:桜井誠)、岩波書店、1965
 - ⊙ 山口四郎訳「おちゃめなピッピ」(挿絵:小坂茂)、『少年少女世界名作全集50』所収、講談社、1963
 - ⊙ 矢崎源九郎訳「長くつ下のピッピ」(挿絵:矢車涼)、『世界の名作図書館27』所収、講談社、1966
 - ⊙ 尾崎義訳「長くつしたのピッピ」(挿絵:太田大八)、『こどもの世界文学21』所収、講談社、1971
 - ⊙ 木村由利子訳『長くつ下のピッピ(こども世界名作童話40)』(挿絵:上野紀子)、ポプラ社、1999
 - ⊙ 菱木晃子訳『長くつ下のピッピ ニューエディション』(挿絵:ローレン・チャイルド)、岩波書店、2007
- Astrid Lindgren: Ur-Pippi. Lriginalmanus. Rabén & Sjögren, 2007

参考文献

❖ 『長くつ下のピッピ』およびアストリッド・リンドグレン関連書籍

- 高畑勲・宮崎駿・小田部羊一『幻の「長くつ下のピッピ」』岩波書店、2014
- ふくやま美術館・株式会社イデッパ編『世界中で愛されるリンドグレンの絵本』(展覧会図録)、株式会社イデッパ、2010

❖ 日本における北欧文学受容

- 榊原貴教「アンデルセン翻訳作品年表」
<http://homepage3.nifty.com/nada/Andersen1.html>
- ちばかおり『世界名作劇場シリーズメモリアルブック ヨーロッパ編』、新紀元社、2010
- ちばかおり『世界名作劇場シリーズメモリアルブック アメリカ・ワールド編』、新紀元社、2010

❖ 服飾史

- 丹野郁編『西洋服飾史 増訂版』東京堂出版、1999
- 丹野郁編著『西洋服飾史 図説編』東京堂出版、2003
- 徳井淑子『図説 ヨーロッパ服飾史』(ふくろうの本)河出書房新社、2010
- 能澤慧子『二十世紀モード 肉体の解放と表出』講談社選書メチエ、1994

ご清聴ありがとうございました

